

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

若い人の中には、^①あいさつをしない人、あるいはあいさつの仕方を知らない人が多くなった。形式的なものに^aカチをおかないとか、^bデントウ的なものにとらわれず自由に振る舞うという立場もあろうが、人とのつきあいの仕方、心のかよいつつた面で、基本的に重要な問題を逸しているのではないかという気がしてならない。

世界中にはいろんな民族があり、多種多様な風俗習慣があるが、あいさつをもたない民族はない。あいさつは、人の結合性を強め攻撃性を抑制するのに大きな役割を果たしている。あいさつをしない人々の出現は、人類の文化史上の新種である。あいさつは、知人や友人、あるいは親しみをもとうとする人の間でかわされる。人々は群衆の中ではあいさつをかわさないし、またする必要もない。あいさつを忘れた若者は、常に群衆の中の一人として、社会の中に自己を位置づけているのだろうか。

あいさつは、人類一般 A ではなく、高等な動物にもみられる。チンパンジーは、握手、おじぎ、抱擁、肩をたたく、ひれふす、キスなど、人間が行なっている基本的なあいさつ行動のほとんどをもっている。チンパンジーになぜあいさつ行動が発達したのかという理由の一つは、特殊な社会構造に求められる。チンパンジーは、他のサル群れとは異なり、集団の中で行動の自由度がたいへん大きい。若者が一週間も旅をして戻ってくることもある。そんなとき、あいさつがかわされる。それによって、^②以前の関係をとりもどすのである。

動物が攻撃性を本能としてもっていることを明らかにしたのは、行動生物学の分野でノーベル賞をもらったローレンツである。動物が空間的時間的にへだてられると、出会ったとき攻撃本能を抑制するための行動が必要である。あいさつはその機能を果たすための行動型なのだ。人間でも、親しい者どうしの間で B しばらく離れていると、親しい関係を再生するために、ちよつとしたあいさつが必要である。

あいさつというのは、このように動物個体間の親和関係をつなぐ重要なコミュニケーションのチャンネルとして機能していることがわかる。このような機能は、幼少のときにしつけとしてしつかり身につける必要がある。人間関係を支えているものは、一見ささいなことに見えても、じつくり^③洞察してみると、人間存在の根底に横たわっている生物の行動法則——内なる自然にかかわっていることが多いのである。人間を結びつけるきずなは、豊かな情操の中でのみ育っていくことを忘れてはならない。

あいさつをしない種類の若者のことは、広くは教育の問題にはちがいないが、^①核家族化の問題と深くかかわっている。現在、^②生涯出生児数は二を割っているが、このことは大きな問題をはらんでいる。^③都市化の進行と住宅事情の貧困とがあいまって、子どもは密室文化の中の生育を^④余儀なくさせられる。親の過保護がそれに C、密室では消費文明のかん詰め化が起こり、やがて発酵しカビが生えはじめる。現代の子どもたちは、多かれ少なかれ、この種のカビに心を犯され、^⑤内なる自然を破壊されかけている。

一人っ子的場合、おじ、おば、いとこといった血縁がまったくない存在になる。この問題は、日本の社会構造の基盤にかかわってくる。わが国の社会を支えている内的制度として、血縁と地縁による人間関係の脈絡をあげることができる。ところが地縁によるきずなは、都会化によって弱められる一方であり、また血縁のきずなは、核家族化と少数出産によって孤立化しようとしている。

最近、コミュニティ論が盛んである。市の ^⑥キボをもつ大人口を擁する住宅団地が一挙に出現するという事態や、巨大都市の空洞化に対処して、新しい都市の秩序と機能を確立するための ^⑦ハウサクとして、この方向は歓迎されてよい。^⑧コミュニティは、まず何よりも共通のコミュニケーションのゆきかう場でなければならぬ。そして、対人関係の調和とそれにもとづく社会的機能の結合が、都市の質を形成することになる。地縁と血縁のきずなは弱体化し、いずれ崩壊する運命にあるだろう。われわれは新しい人間のきずなを作りなおさねばならない。このときわれわれは、人間存在の根底にある内なる自然に目をむけ、そこから新しい方法を見つけるべきではなからうか。あいさつ、いたわりあい、思いやり……、物質文明の重圧にひしゃげられ風化しかけているものをよみがえらせることに、一人一人が思いをはせること、それによってはじめてコミュニティづくりは可能になる。

(河合雅雄『サルが目ヒトの目』)

(注) 洞察…よく見通すこと。見抜くこと。

余儀なく…それ以外に取るべき方法がなく。他にとって代わる方法がなく。

コミュニティ…地域社会。

問一 傍線部 a～d のカタカナを、漢字に直しなさい。

問二 傍線部①「あいさつをしない人、あるいはあいさつの仕方を知らない人が多くなった。」とあるが、筆者は「あいさつ」にはどのような役割があると述べているか。解答欄に合うように、文中から十六字で抜き出しなさい。

問三 傍線部②「以前の関係」とは、どのような関係か。文中から五字で抜き出しなさい。

問四

A	・	B
---	---	---

 に入れるのに最も適当なものを、次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。
ア さえ イ まで ウ ほど エこそ オ だけ

問五 傍線部Ⅰ「核家族化」、Ⅱ「生涯出生児数は二を割っている」、Ⅲ「都市化の進行」とあるが、これらの現象が日本の社会構造にどのような変化をもたらすというのか。三十五字以内で答えなさい。(句読点も字数に含む)

問六

C

 に入れるのに最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 水をかけ イ 輪をかけ ウ 目をかけ エ 手をかけ

問七 傍線部③「内なる自然を破壊されかけている。」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 子どもたちが本来もっている、親に対する反発心が次第に薄れてきているということ。
- イ 子どもたちが本来もっている、無邪気さや純粋さをなくしかけているということ。
- ウ 子どもたちが本来もっている、人とかかわりながら生きる力を失いかけているということ。
- エ 子どもたちが本来もっている、外で遊ぼうとする意欲がなくなっているということ。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

Ⅰ ことばには決まった意味が厳然と存在していると考えている人が多いと思う。これは、半分正しいが、半分正しくない。一つの単語に一つの意味が対応していれば簡単で明瞭だが、^②ことばの意味に「あそび」がないとことばは使い勝手が悪くなる。「あそび」は緩さであるだけでなく、ことばの柔軟性でもある。例えば、^③「学校」ということばの意味は、決まったものが一つあると思いがちだが、実際は使い方で意味は多様である。「学校が休み」というときは「授業」のことであり、学校という用務・業務として見ているが、「学校を建てる」では建築物、「学校に着く」では場所、「学校を創設する」では^aソシキとして見ている。

Ⅱ つまり、^④ことばの意味は実際に使われた段になって確定的になるのであって、使われる以前の段階では、限定されていない。いわば、いろいろな意味になる可能性に満ちているのである。実際に文脈の中に位置づけられてはじめて意味が絞^{しぼ}りこまれていくのは、

A

 だけでなく、文でも同じである。海外のある日本語の教科書には「太郎は、川でサンマを釣りました」という例文が^bノついていたというが、この文は形式上間違った日本語ではなく、意味も確実にわかる。しかし、サンマが川魚でないことは日本人にとっては常識だから、実際に

B

 にすると、おかしいと思う。

Ⅲ このように字面から形式的にわかる意味は、場面や文脈などの影響を受けない場合に限られる。字義どおりの意味とは、文脈を排除した意味なのである。しかし、実際のことばは、特定の場面で用いられ、なんらかの文脈を伴う。つまり、文の字義どおりの意味も、単語の辞書的な意味も、現実に使われていることばの意味ではなく、いわばショーケースに無菌状態のまま ^cホカン^cされていることばである。

Ⅳ これに対して、実際に用いることばは、それほど単純ではない。全く同じことばを発したとしても、誰が誰に言うか、どういう状況で、どういうことばを受けて言うかで、解釈は全く異なる。やや極端な言い方をすれば、完全に ^dドワイツ^dの状況や場面は考えられない。同じ人物が発したことばでも、昨日と今日ではなんらかの違いがあるはずであり、すべての発話について二つとして同一のものはないことになる。つまり、実際に用いられることばの解釈は非常に多様であり、厳密に言うとなんらかの意味の違いがあるのである。

(加藤重広『その言い方が人を怒らせる』)

問一 傍線部 a～d のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 「ことば」と「意味」の関係について書かれた傍線部①～④の中から、同じ内容ではないものを一つ選び、記号で答えなさい。

問三 [A] に入れるのに最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

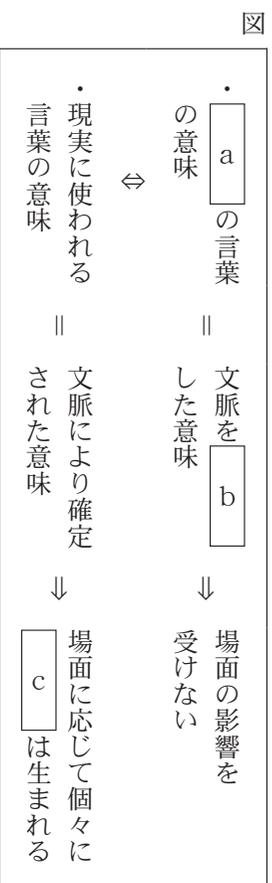
ア 場面 イ 単語 ウ あそび エ 文脈

問四 「[B] にする」が「聞く」という意味になるように、[B] に入る適当な語を、漢字一字で答えなさい。

問五 傍線部⑤について説明した次の文の [I]・[II] に入れるのに適当な語句を、それぞれ [II] の段落から抜き出しなさい。ただし、I は十字以内、II は五字以内とする。

形式としては [I] ではないが、文脈の中に位置づけて考えると、[II] と感じる文の例。

問六 [II]～[IV] の段落を整理した次の図の [a]～[c] に入れるのに適当な語句を、それぞれ文中から抜き出しなさい。ただし、a・c は五字、b は二字とする。



三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「俺」こと戸村コウスケは、高校三年生。野球部を引退したコウスケは、合唱祭でのクラスの指揮者を自ら引き受けた。伴奏者の北島君にアドバイスをもらいながら練習を繰り返し、いよいよ本番を迎えた。

始まるのだ。もう行くしかない。落ち着け戸村心臓。俺は小さな深呼吸をしてから、手を挙げた。

みんなが合唱の ^aシセイを作る。手を振り下ろすと、北島君のピアノが鳴る。みんなの息を吸う音までもが俺の耳に入る。スタートが切られた。

く母なる大地のふところにわれら人の子の喜びはある大地を愛せよ大地に生きるく

最初はゆったりと静かに。そして、静かなながらも雄大に。指先が震えているのがわかる。気持ちはやるけど、走ったらあかん。ここは丁寧に丁寧に歌詞を拾っていく。

く人の子ら人の子その立つ土に感謝せよく

バス、テナー、アルト、ソプラノ。各パートでつないでいく。俺はそのたびにそちらのほうへ身体を向けた。 [A] 声が返ってくる。みんな ^bシンケンに俺を見ている。次第に声が一つになって広がっていく。

そして、間奏。北島君のピアノソロは完璧だ。北島君は俺の指先をじっと見据えながら、鍵盤を叩いていく。ピアノにどんどん命を吹き込むように叩いていく。俺の指先からこぼれるように、ピアノの音が響く。やっぱり北島君、めっちゃピアノうまいやん。僕のピアノはここまでやって言っただけ、前よりまたすこくなってる。俺は北島君の弾くピアノがほんまに好きやと、また思った。

間奏を弾き終えた北島君が俺に合図を送った。「さあ、行けよ。」ってこと。ここから少しずつ盛り上がりつつ盛りの上がっていくのだ。

く平和な大地を静かな大地を大地をほめよたえよ土をく

穏やかな静寂。ラストスパートが始まる。女子パートと男子パートの声が重なっていく。それをまとめていかなくちやいけない。みんなの声がどんどん大きくなる。でもまだ急ぐな。まだ走るな。一番最後に向けて今は力を溜めろ。はやる俺の指揮を北島君のピアノが抑える。

くほめよたえよ土を母なる大地をたたえよ大地をく

クライマックスに向けて音が高くなり、雄大な声が響く。身体には音楽がこぼれんばかりに満ちていた。ラストを迎え、指先に溜めた

力が一気に解き放たれる。身体はもう勝手に動いていた。完全に北島君のピアノに、みんなの声に乗っていた。指揮台から落ちそうになりながら、最後の声を捕らえ、俺の手は合唱を閉じた。

とんでもない疲労感だった。指揮台から降り、観客席に頭を下げたときには、野球でいうなら炎天の下、二ゲーム終えたくらいだ。完璧な合唱だった。成功だ。鳥肌がしばらく収まらなかった。歌い終えた みんなの顔も上気していた。 ② しかし残念だけど、最優秀賞は逃した。俺らが打ち込んできたように、どのクラスだって必死だったのだ。最優秀賞は三組だった。ややこしい英語の歌をアカペラで歌いやがった。俺ら二組は二位。みんな マンゾク そうにしていたし、女子は半分ほど泣いていた。良い合唱祭だった。

閉会式を終え教室に戻ろうとしたとき、北島君が俺の前までやってきてすつと手を差し出した。

「何？まさか握手？なんか、照れるやん。」

「楽しかったわ。」

俺は漫画みたいに頭をかいたけど、北島君はさつと俺の手を握った。こういうことを躊躇ちゅうちゆなくできるところが、北島君と呼ばれる所以ゆゑんかもしれない。

細いけどしっかりとした指。あの音を奏でた指だ。そう思うと、俺も思わずしっかりと手を握り締めてしまった。

「ありがとう。俺、北島君に教えてもらったからなんとか指揮できたんやわ。」

「僕も戸村が指揮者でさ、おもしろかった。」

「また、なんかこんな風なことやろうや。」

「ほんまに。」

北島君は微笑んだ。

(瀬尾まいこ『戸村飯店 青春110連発』)

問一 傍線部 a～c のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 A に入れるのに最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 焦あせったように イ 思い出したように ウ 応こたえるように エ 突き放すように

問三 傍線部①「俺の指先からこぼれるように、ピアノの音が響く」とあるが、コウスケがこのように感じている理由として最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 北島君の伴奏をコウスケの指揮が追う状態になっているから。
イ 北島君の伴奏の激しさがコウスケの指揮を圧倒しているから。
ウ 北島君の伴奏の良さをコウスケの指揮が引き出しているから。
エ 北島君の伴奏がコウスケの指揮とびつたりと合っているから。

問四 無心になって指揮をしているコウスケの状態を表現している一文を、文中から十五字以内で抜き出しなさい。(句読点も字数に含む)

問五 傍線部②「みんなの顔も上気していた」とあるが、それはどのような様子か。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 高ぶった気持ちが続いている様子 イ 解放感に浸りくつろいでいる様子
ウ 意外な結果に呆然ぼうぜんとしている様子 エ 他のクラスが気になっている様子

問六 傍線部③「俺も思わずしっかりと手を握り締めてしまった」とあるが、それはなぜか。四十字以内で答えなさい。(句読点も字数に含む)

問七 本文の表現上の特徴を説明したものととして、最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 合唱曲の歌詞の挿入によって、コウスケの視点で書いた重厚な文体に爽さわ快感を添えている。
イ 感情を抑えた表現によって、合唱コンクールという非日常的な場面に臨場感を加えている。
ウ 短文を連ねることによって、コウスケの心の動きや場面の緊張感をありありと描いている。
エ 比喩表現を多く用いることによって、コウスケと北島君とを対比させ存在感を与えている。

〔四〕次の文章Ⅰ・Ⅱを読んで、後の問いに答えなさい。ただし、文章Ⅱは筆者が兼好法師になりかわって説明したものである。

I

今日はその事をなさんと思へど、あらぬ急ぎまづ出で来て、まぎれ暮らし、待つ人は障りありて頼めぬ人は来たり、頼みたる方の事は違ひて思ひよらぬ道ばかりは、かなひぬ。②日々過ぎ行くさま、かねて思ひつるには似ず。③一年の中もかくのごとし。一生の間もまたしかなり。かねてのあらし皆違ひ行くかと思ふに、おのつから違はぬ事もあれば、いよいよ物は定めがたし。不定と心得ぬるのみまことにて違はず。

〔徒然草〕第百八十九段

II

人間というものは、謙虚なようで傲慢である。人間ある程度の期間、人生というものをやって来て、大体のことは分かったような気がして来る。「どうせ俺の思っていることなんかみんなはずれてくんだから」と思っていてひねくれてると、その内に「当たり前」というものやって来る。

“ものを考える”という行為は、すべての物事を固定したモノサシで止めてしまうこと。ところがすべての物事は生きて動いておる。時が流れて行くものである以上、すべての物事がとどまりつ放しである訳がない。にもかかわらず、人間という愚かで弱いものは“安心”をしたいたもんじゃないから「時間よ止まれ！」のブレーキをかけようとする。

しかし残念ながら、すべては流動的というのが世の中で、これが宇宙の根本なのじゃから、「動くな！」と言つてもしようがない。柔軟にならなければしょうがない。本来の意味での“分かる”ということは、こういう“譲歩”をすることじゃな。

人にこういう譲歩をさせる流動的な状態のことを“不定”という。すべては“定めがたし”で“不定”なのじゃからしようがない。

“不定”が不安になるというのは、ただなまけて安心しておきたいという、人間の怠惰のなせるわざなんじゃ。④人間は、謙虚なようで傲慢でもあるというのは、結局人間というものは己の怠惰になかなか目を向けようとはしないもんだからじゃな。

〔橋本治〕『絵本徒然草』

問一 傍線部①「まぎれ暮らし」とあるが、何に「氣をとられて過ぐす」のか。文章Ⅰの中から抜き出さない。

問二 傍線部②「かなひぬ」を現代かなづかいに直し、ひらがなで答えなさい。

問三 傍線部③「一年の中もかくのごとし」とあるが、「一年の中も」どうだということのか。その説明として最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 気ままに過ぎていく。 イ 危うい事態が生じる。 ウ あと始末に追われる。 エ 予想通りにいかない。

問四 傍線部④「当たり前」とあるが、それを文章Ⅰの後半では何と言っているか。五字以内で抜き出さない。

問五 傍線部⑤「安心」をしたい」という人間の心の傾向を、文章Ⅱの後半では何と言っているか。適当な一語を抜き出さない。

問六 傍線部⑥「人間は、謙虚なようで傲慢でもある」とあるが、傲慢にならないためにはどうすればよいのか。文章Ⅰから十字以内で抜き出さない。

五 次の問いに答えなさい。

問一 次の文には、二通りの読み方があるのに、送り仮名の付け方を間違えているため、どう読めばよいのか分からない漢字がある。その漢字を抜き出し、正しい送り仮名を二通り答えなさい。

国語の授業で万葉集について調べることになり、クラスのみんなで因幡万葉歴史館を訪ることにした。歴史館には、様々なコーナーが設けてあり、因幡の国の歴史や大伴家持など万葉の歌人について、詳しく学ぶことができるそうだ。

問二 次の熟語の「過」の総画数は何画か。また、「密」の「」の部分は何画目か。それぞれ漢数字で答えなさい。

過密

問三 熟語の組み立てが「比較」とは異なるものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 創造 イ 縮小 ウ 詳細 エ 因果

六 「あなたがこれまで努力してきたことと、それを通して得たもの」について、次の《注意》に従って書きなさい。

《注意》

原稿用紙の正しい使い方に従って、一五〇字以上、二〇〇字以内で書くこと。

題名などは書かずに、本文から書き始めること。